

令和4年度

事業計画書

令和4年4月 1日から

令和5年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

はじめに

コロナウィルス感染症が2年間に渡り、社会生活に支障をもたらす事態が続いております。この為、令和2年度、3年度と当財団の公益目的事業の中核的事业であります「タカミヤ・マリバー環境保護シンポジウム」が開催出来ない上に、その他の公益事業につきましても、大きな影響が出ております。

そういうコロナ禍という状況下ではありますが、本年度に関しては、出来る限りの公益目的5事業についての活動を行って参りたいと考えております。令和4年度も、過去の活動を踏まえつつ、このコロナ禍のなかでも、地域の水辺環境と真摯に向き合い、公益法人の要件である公益性、公平性を保ちながら積極的に諸事業を実施し、より高い信頼を頂ける公益財団を目指して参りたいと考えております。

公益目的事業計画

- I. 河川・海岸線の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業、海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業（マリバーエイド）
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業に関するシンポジウム・環境教育事業
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営・管理事業

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 環境美化イベント事業

財団主催、及び共催により、令和4年度は6回の河川・海岸線美化清掃イベントを実施いたします。内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心として年間3回以上の市民参加を呼び掛けている河川、河畔での清掃イベント、小倉海岸、若松北海岸、門司大里海岸、若松響灘海岸を中心として、年間3回以上の市民参加の啓発型清掃イベントを実施いたします。

2. マリバー号による塵芥回収事業

マリバー号による市内海岸線、河川敷の塵芥回収事業は、今期も積極的に回収活動を実施して参りたいと考えております。事業内容は、乗務員3名での交代制により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線や内水面での、市民への環境美化の呼びかけ運動、及び乗務員による清掃、ゴミ回収及び処理並びに広大な北九州市内海岸部及び内水面周辺に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を行って参ります。

また、土、日祭日等が開催されます環境保護関連イベントには、主催者の要請を受け、水辺環境美化に対する啓発活動を実施します。

マリバー号巡回・海岸線エリア

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 門司港・和布刈エリア
- キ. 太刀浦エリア
- ク. 新門司北エリア



マリバー号巡回・内水面エリア



Ⅱ．水生生物の生態研究及び保護・育成事業、

海域の水産資源保護・増殖事業

令和３年度には、再度、「アユ」の遡上確認を行って、数年前に石組みを行った魚道の機能を検証しました。令和４年度も昨年度と同様にアユ遡上調査を計画しました。調査時期を遡上のピーク時のみに絞り、遡上数推定の精度向上と石組みの効果を再度、検証し３年間の調査のまとめとしたいと考えます。

令和４年度 水生生物の調査研究事業

【紫川アユ遡上調査（紫川井堰、片野井堰、伊崎井堰）】

１－１ 目的

紫川の紫川井堰（新日鐵取水堰）では、平成２８年度に日本大学理工学部の安田陽一教授により「遡上しやすい魚道づくり」のため、魚道内への石詰作業が行われています。令和２年度及び令和３年度はこの魚道にてアユの遡上調査を実施し、令和２年度は約２,６００個体、令和３年度は約２,９００個体のアユ遡上が推定されました。しかし、近年の異常気象などにより、降水量不足による魚道内の渇水や、極端な豪雨による増水など、アユの遡上への悪影響が懸念されています。令和４年度も過年度と同様にアユ遡上調査を実施し、経年的な遡上状況の変化について把握を行います。

なお、昨年度は安田教授が創出した片野井堰及び伊崎井堰の石組魚道の遡上状況の把握のため、令和３年度は魚道上流側において定置網による捕獲調査を実施しましたが、増水による定置網流失の危険性から、令和４年度はビデオ撮影と目視による遡上確認調査を実施する計画です。

１－２ 調査場所および時期

- ・紫川井堰：４月１１日～５月１３日 週３回(月水金)の頻度で計１５回実施
- ・片野井堰及び伊崎井堰：石組魚道上端部にビデオカメラを正時から３０分間設置
 - ①アユ放流祭後の１週間以内に１回
 - ②河川増水後の濁り解消後に１回

1－3 調査内容

調査内容を表－1に示す。

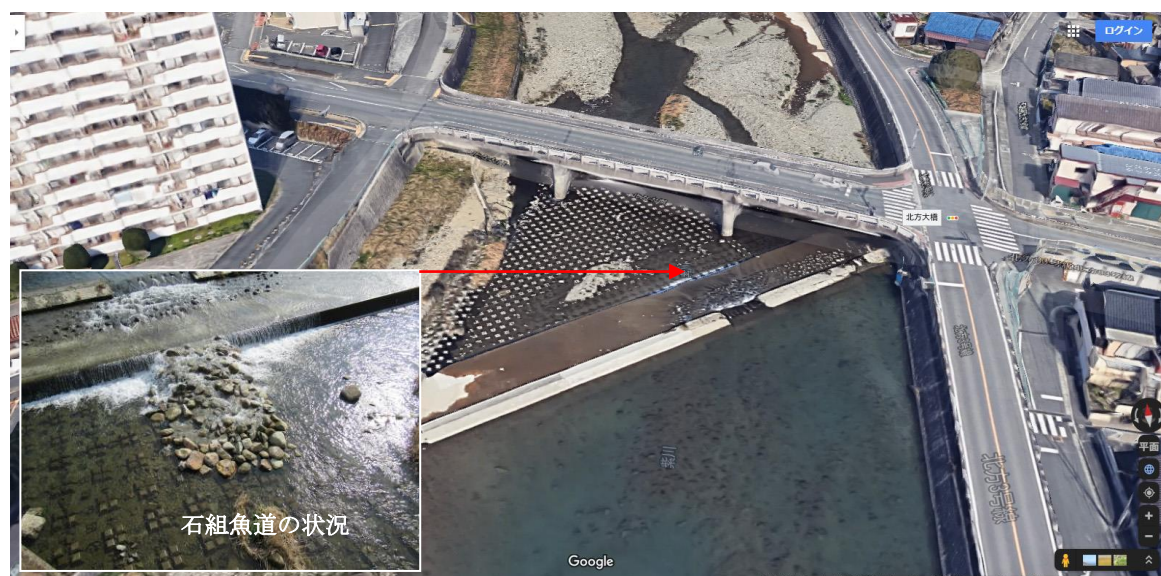
表－1 調査内容

項 目	場 所	摘 要
アユ 遡上調査	紫川井堰 【新日鉄取水堰】	アユ遡上数の目視調査 時期：4月11日～5月13日 <u>※渇水の場合は調査回数を延長</u> 頻度：週3回（月・水・金）計15回 時間：8:00～17:30の時間帯（30分間隔で目視計測） 方法：魚道上端部を通過する個体を目視計測する
	片野井堰 伊崎井堰	ビデオ撮影による遡上確認（ピンポイント撮影） 時期：①アユ放流祭後の1週間以内に1回 ②河川増水後の濁り解消後に1回 方法：石組魚道上端にビデオカメラを毎正時～30分設置 撮影時間は10:00～15:00を予定

①村川井堰（新日鉄取水堰） アユ遡上目視調査



②片野井堰（石組魚道上端部にビデオカメラを設置）



③伊崎井堰（石組魚道上端部にビデオカメラを設置）



2. 紫川への稚アユ放流

例年通り、4月に福岡県水産振興課よりのご協力を得て、福岡県産の稚アユ 2万尾を放流します(4月23日を予定ですが、放流のみの可能性有り)。

3. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成金交付団体である地域団体を中心としての、調査・増殖を行っております。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定し行っております。

4. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源の保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源枯渇を食止め、保護・増殖に努めます。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流します。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年との

ふれあい事業を行う団体に対する助成事業（マリバーエイド）

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして連動して盛り上げていこうという運動です。

このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただく助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“タカミヤ・マリバー・エイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的とした活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます）を対象としております。

この助成金の交付の対象となる事業（以下、「助成事業」という）は、事業開始前の2月1日より3月10日にホームページ及び関係行政機関等を通じて公募し、その対象は次に掲げる1～5を充たすものとします。

1. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、基本的には北九州市内に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含む）。
2. また、次に掲げる要件を備えている団体、又はグループ。
 - ・ 現在、団体の意志を決定し、執行する組織を維持していること。
 - ・ 自らを経理し、明朗な会計機能を有すること。
 - ・ 代表者または事務局担当者の責任、所在連絡先が明確であること。
 - ・ 事業全体の適切な事業報告書（含会計報告書）の作成、提出等が確実に履行出来ること。
3. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った、特別なイベントの主催団体。
 - ・ 但し、営利目的の事業、企業色の強い、宣伝を意図したイベントは除く。
4. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った事業内容で、申請を希望する団体が直接主催する事業。

5. 実施地域は、北九州市を中心とした福岡県内に限るものとし、令和4年4月1日から令和5年3月31日までに実施予定の事業

この事業の対象団体の審査、選定にあたっては、学識経験者を中心とした「助成金選定委員会」により、厳正かつ公平な運用を行って参ります。

令和4年度助成事業（過去の実績と現在の申請状況からの目安）

- ① 河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業
 - (1) 河 川 北九州市内の河川
 - (2) 区 間 北九州市内域の全区間
 - (3) 助成団体 15～18団体

- ② 水辺の自然と青少年とのふれあい事業
 - (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
 - (2) 助成団体 15～18団体

- ③ 水生生物の生態研究並びに保護・育成事業
 - (1) 習性研究・遡上数調査
 - (2) ホタル飼育
 - (3) 助成団体 10～15団体

- ④ 河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業
 - (1) 北九州市への稚魚放流
 - (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
 - (3) 助成団体 1～5団体

- ⑤ その他
 - (1) 環境教育事業
 - (2) 海岸線緑化他
 - (3) 助成団体 10～15団体

Ⅳ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の青少年との

ふれあい事業に関するシンポジウム・環境教育事業

この事業は、公１、公２、公３の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年１回市民に対して環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストやパネリストと共に、環境問題に取り組んでいる方々や、団体を招いて開催します。

令和２年度、３年度は、新型コロナウイルス感染拡大の為、開催を見送りましたが、今年度は、状況が許せば、例年同様の規模にて開催を、下記のように計画しております。又その時の状況により、リモートによる開催も選択肢として考えております。

１．第２５回タカミヤ・マリバー環境保護シンポジウム

詳細は今後決定をさせていただきますが、今年度のシンポジウムは１１月下旬に下記の要綱で実施予定でございます。

- ◆日 時 …… 令和４年１１月下旬
- ◆会 場 …… 北九州市商工貿易会館
- ◆主 催 …… （公財）タカミヤ・マリバー環境保護財団
- ◆共 催 …… 北九州市
- ◆基調講演 …… 未定
- ◆講 師 …… 未定（現在、選考中）
- ◆参 加 者 …… 約２５０名 ※参加費無料
- ◆行 程 ……
 - １．主催・共催挨拶
 - ２．助成先団体紹介
 - ３．団体表彰
 - ４．基調講演

２．環境教育

財団では、これまでふれあい体験活動や、ホテルの飼育、遊休地を活用したビオトープ作りを行っている小学生との対話、活動協力等を通して、様々な子どもたちへの環境活動を、直接的、間接的に行ってまいりました。

今年度も引き続き、市内小学校や大学と連携し、次世代を担う子どもたちの健全な育成に取り組んで参ります。

ホタルやメダカといった水棲生物の保護・育成を目的としたビオトープ作り、市内の川や池・海岸をテーマとした生物調査や水質調査に積極的に参加、支援を行って参ります。

当財団は、様々な野外体験や自然体験を通して得られる自然の摂理や自然の尊さ等を学ぶ機会の場合、継続して提供していくことが重要だと考えております。今年度も引き続き小学校や地域の団体、P T A・教育委員会等との連携を密にとり、子ども達への環境教育支援を強化して参りたいと考えております。

環境教育決定事業

- ① 今町小学校自然体験教室 ※日時・・・7月9日（土）を予定
「ふるさとの川・紫川のことを知る」
- ② 大蔵小学校自然体験教室 ※日時・・・9月3日（土）を予定
「大蔵川の水生生物」

V. 北九州市環境ミュージアムの運営・管理事業

1. 基本事項

管理運営

理念と基本方針

北九州市環境ミュージアム条例には以下4つの設立目的が記載されている。

1. 公害克服の過程、環境の保全、環境への負荷低減に資する技術等に関する資料を収集し、保管し、及び展示する事業
2. 環境の保全に関する学習及び交流の場を提供する事業
3. 環境の保全に関する啓発事業
4. 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事業

基本理念

進化する北九州市環境ミュージアム

(持続可能な社会の共創拠点を目指して)

北九州市環境ミュージアムは、2002年の開館以来、北九州市の公害克服の歴史や世界の環境問題、身の回りのエコや市民・企業の環境への取り組みなどを楽しみながら学べる環境学習及び、交流の拠点としての実績を着実に積み重ね、累計来館者200万人を達成するなど大きな成果を挙げてきました。

一方で、私たちを取り巻く「環境」は激変しています。人類の生存と将来をおびやかす地球温暖化の影響は、異常気象やそれに伴う災害の頻発など既に現実のものとなり、また一部の地域や人々が経済発展の果実を享受し物質的な豊かさを楽しむ一方で多くの人々が、貧困や差別など過酷な社会問題に苦しんでいる状況は深刻さを増しています。

これらの諸課題の統合的解決のため、2015年のCOP21でのパリ協定締結、また同年の国連における「持続可能な開発目標（SDGs）」（環境・経済・社会の各領域における17の目標）の全会一致採択など2030年の目標達成に向けて世界は持続可能な社会づくりに向けて大きく動き始めました。

北九州市は、公害克服からエコタウン等の資源循環社会への対応あるいはスマートコミュニティ創造や水素社会実証などの先進的なプロジェクトへの取り

組みにより、国連自治体表彰をはじめ政府の環境モデル都市や環境未来都市としての選定など国内外から高い評価を受け、SDG s 未来都市さらには OECD の SDG s 推進モデル都市にも選ばれるなど、今後の持続可能な社会実現においても世界のトップランナーとしての役割を求められています。

当財団は、環境ミュージアムもこのような時代の要請に応えて新たな役割を担うべく、過去・現在を「学習する」場から、未来の持続可能な社会づくりに向けて行動、実践する「共創」の場への進化を図る時期を迎えていると考えます。持続可能な社会の実現には、これまでの延長線上の取り組みではなく、ライフスタイルや価値観の変容が必要不可欠であり、産業革命の時代に匹敵するような社会システムの根本的な革命が求められますが、この様な革命的事業こそ、1901 年の官営八幡製鐵所操業開始以来、我が国の産業革命発祥の地として我が国の近代化をけん引し、さらに環境都市そして環境首都を目指して様々な課題に先駆的に取り組んできた北九州市の歴史使命と考えます。

当財団は、北九州市環境ミュージアムの運営を通じて、市民、企業、行政をはじめとする有志の皆さんと共に、持続可能な社会の実現、そして世界のグリーン革命に貢献していく所存です。

北九州市環境ミュージアムは進化します。20 世紀の「日本の産業革命」発祥の地、北九州市が次は 21 世紀の「世界のグリーン革命」の発祥の地となることを目指して。

基本方針

これまで培ってきた運営実績を礎に「進化する環境ミュージアム」への飛躍を目指して 6 つの「進化」を基本方針とし、入館者数目標はコロナ禍にある状況の変化、IT 技術の進展を踏まえ、WEB 上での参加を促進し 13 万人以上を目指す。

■ 領域の進化

持続可能社会共創センターの機能を活用し、これまで取り扱ってきた公害克服の歴史、環境保全や資源循環ならびに低炭素化社会に関わる領域を基本に、SDG s 持続可能な社会の実現に向け、環境、経済、社会にわたる諸課題に総合的、分野横断的に取り組んでいきます。

常設展示、企画展示をはじめとする各種プログラムの内容についても SDGs

領域への対応を図るべく、積極的に企画提案等を行っていきます。

■ 活動の進化

館内展示解説ガイドや環境学習支援者としての役割から、一人ひとりの主体的な行動変容につなげていく「インタープリター」あるいは協働・共創を促す「ファシリテーター」としての活動へのレベルアップを目指します。このため行動変容に関する調査手法の確立を行います。

また、児童・学童から高齢者までの多世代の方々、障がいのある方、海外からのお客様、市民から企業、研究者等まで多様なゲストへの最適な情報やプロジェクトの提供などの対応力を強化していきます。

■ 連携の進化

これまで蓄積された市民、NPO、教育・研究機関、企業等とのパートナーシップを基盤に、海外の団体・機関等とさらなるネットワークの拡大に努めていきます。

また、単なる「学習」や「交流」の場でなく、新たな価値やプロジェクトを生み出し、持続可能な社会に向けた行動、実践につなげていく「共創」の場への進化を目指します。

東田地区を中心とする博物館、美術館、産業遺産群（含む世界遺産）等との共同企画や横断ツアーの開発等、エリア連携を一層進化させていきます。

《環境ミュージアム 2022 年度事業計画に関する基本方針と主な取り組み》

基本方針

- ・ 20 年間の振り返りとこれからのミュージアムのイメージづくり
- ・ 社会・利用者ニーズの取り込み
- ・ より広範な利用者の獲得

『考えるミュージアム』への深化を深掘りし、以下の取り組みを実施

【社会・利用者のニーズを取り込んだガイド内容】

- ・ SDGs に関する展示・解説ツールの充実
- ・ カーボンニュートラルに関する展示・解説ツールの新設
- ・ SGD s ・カーボンニュートラルに特化したアクティブラーニングの開発

【20 年を振り返り、今後を展望するイベントの開催】

- ・開設 20 年を意識した未来ホテルデーの開催
- ・カーボンニュートラルに関するイベントの実施

【多面性を考慮したツアーイベントの充実】

- ・ドコエコツアー、鉄の道ツアー、河川生物調査、東田まちづくりツアーなどの実施

【対象を拡大した出張ミュージアム】

- ・周望・穴生学舎、イオンモール八幡東、保育園、学校、公民館等（WEB を含む）広範に対象を拡大

【オンラインでも参加可能な連続講座】

- ・青空学、SDG s 講座、科学技術と SDG s 、環境最前線をオンライン同時生配信で実施

【訴求ポイントを新たにした企画展の開催】

- ・エックス都市研究所企画展、企業と SDG s 企画展、カーボンニュートラル企画展を通しての新たな訴求

これらの取り組みとともに、オンライン・出張イベントを含めて 13 万人の入館者目標を達成する。